大阪府都市基盤施設維持管理技術審議会　第２回全体検討部会

議事録要約版　（未定稿）

1. 議事要旨確認

特に疑義なし

1. 戦略的な維持管理の推進

２−１．効率的・効果的な維持管理手法の確立

1. 戦略的維持管理の方針

●　今回、分野横断的な取組を推進するということが一つの課題であったと認識しているが、課題認識の部分では、それが見えない。課題認識の部分でもはっきりと明確に示すべきでは。

1. 点検、診断・評価の手法や体制等の充実

●　技術的な部分の記載は必要だと感じていたが、診断・評価の技術的な部分を記載するとなると、分野・材料毎に非常にボリュームが多くなり、方法論を基本方針としてどのように記載するべきか、検討が必要である。

●　診断・評価について、相互比較を行うことで、府が管理する施設全体の状況を把握できるとあるが、どうすれば横断的に何をどう把握できるのか。具体的な使い方も含めて何か方法を考える必要がある。

●　材料の観点から見たときの詳細調査の中身はまとめようとしておられますが、一般の定期点検で見る調査項目などの中身がどうなっていて、それらを分野横断的に見たときに劣化度などがどう分類されているのかという整理があると、分野横断的に統一感を持って管理できるのではないか。

1. 維持管理手法の体系化 / 更新時期の考え方

●　府において、基本となる管理水準の考え方はなんなのか。

●　目標管理水準については、あまりぶれないとしても、限界管理水準については分野・施設毎にかなり考え方が異なる。その辺を明確するには、限界管理水準の考え方をそれぞれできちんと書いてもらわないといけない。

●　管理水準の考え方について、要求性能や限界など様々言われておりますが、ここで議論するのは、設計での性能や限界ではなく、あくまで荷重が作用していない状態で、そもそもモノとしてダメな状態のことかと考える。その辺、用語の定義も含めて整理していただきたい。

●　予防保全の図ですが、目標管理水準の下の破線は不要ではないか。

●　全性・信頼性という用語ですが、一般的にはリライアビリティーだと思います。用語の定義を見ると設備の信頼性と定義されており、例えば設備に関しての信頼性であるなら、突発的に壊れるということを信頼性としており、構造物だと安全性で表現されているが、そのあたりについても修正いただきたい。

●　劣化や損傷の定義も違和感がある。損傷の説明は時間の経過に伴って進行しない変状とあるが、地震によって発生する変状はどう分類されるのか。

地震動によって、側方流動などが発生し、時間の経過とともに変状が現れる損傷もある。

道路の舗装に関しても、車が走っているのか、走っていないのかで異なる。

●　安全性・信頼性という考え方が基本中の基本にあるのはわかるが、冒頭に多用されており、違和感がある。

●　施設の信頼性という表現より、｢施設の信頼性確保のため｣や｢信頼性の観点から｣などの方がわかりやすい。公園遊具の陳腐化という表現もわかりにくく、｢公園遊具の陳腐化など府民ニーズへの対応｣とか、表現を工夫いただきたい。

●　先ほどご指摘ございましたが、性能の劣化曲線というか。性能そのもののイメージを例示したらわかりやすいのでしょうか。

●　要求性能というものが何を示しているのか、用語ではなく本文中に明確に記述して欲しい。

1. 重点化指標・優先順位の考え方

●　事業管理室が分野横断的にマネジメントを行い、弾力的に予算配分することを基本とする、とありますが、この基本とはどのような意味でしょうか。

1. 日常的な維持管理の着実な実践、新設工事上の工夫、新たな技術の活用

●　道路部会でも話があったが、パトロールや点検について、そのデータを蓄積したということが、管理者や担当者にすぐ分かるような仕組みが必要ではないか。データを探さないと結果がわからないので、チェックが疎かになり、即時性にも欠ける。

●　新たな技術の活用について、実績が無ければ活用できないという課題を解決するための方法が全く記述されていない。

●　技術の試行実施とあるが、現状で実施することのハードルはどうなのか。

２−２．持続可能な維持管理の仕組みづくり

1. 人材の育成と確保、技術力の向上と継承

●　経験年数のグループ化について、グループ④など、専門知識・経験も充実しているとあるが、その知識や経験の裏付けはとれているのか。例えば、道路分野に10年居ても積算ばっかりしていては、専門知識を有しているとは言えないのではないか。そういった内容まで踏まえてグルーピングしていただければ、非常に説得力が増す。

●　ここで議論しているスペシャリストやマイスターの必要性が、府全体で理解されるように整理をしていただきたい。

●　スペシャリストとマイスターの内容が非常に曖昧なので、定義を明確にすべき。

●　技術研修を体系化したり、カルテを作ったり、技術力の向上を目指しているが本当に職員がそう考えているのか。我々は技術力向上を目指してくれるという前提で考えているが、異なれば組織はあるが、魂が入っていないとなる。

●　キャリアパス制度も踏まえて検討するということなので、もっと踏み込んで、キャリアパス制度を構築するとぐらい記述できないのか。スペシャリストも必ず作る。現状では検討だけで終わってしまわないか不安です。

●　スペシャリストとジェネラリストの割合というのは、1対9よりも少ない位を想定していたが、ここに書くべきかわかりませんが、審議会でスペシャリストは必要という提言を行うことになる以上、大阪府として公務員技術者の人事をどう考えていくのか、記述していただきたい。

1. 現場や地域を重視した維持管理の実践

●　維持管理ネットを試行実施していくという話があったが、現在の進捗状況をご説明いただきたい。

1. 維持管理業務の改善と魅力向上のあり方

●　入札契約制度について、設備のことしか言及していないが、他の分野・施設も同様に考えなければいけないことなので、検討を深めるべき。このような形で、設備のみを記載するのであれば、参考資料程度にするべき。

1. 平成２６年度　審議会スケジュールについて

・9～10月に各分野部会を開催

・年末に全体検討部会、幹事会を開催

　　・年明けには最後の各分野部会、全体検討部会を開催

　　・3月末に最終の審議会を開催し、長寿命化計画(案)のとりまとめ

　　・中間報告たたき台については、7月10日を目処にご意見・ご指摘を事務局まで報告

　　・今回の審議及び8月11日の幹事会に向けては部会長預かり